



面目精神

和人物

妍媸彷彿

畫笈全卷之五

七福神

昆沙門



鏡前直方

林守篤編輯

辨財天

諸天傳子尼...



守房筆



布袋

川

標



布袋

白

和歌三神



玉津嶋

朱



住吉

倭人物



夷神
命

白

朱



大黒

朱

標

白

入



福祿壽

福祿壽
老人と云
ついでに
八十八
の精



壽老

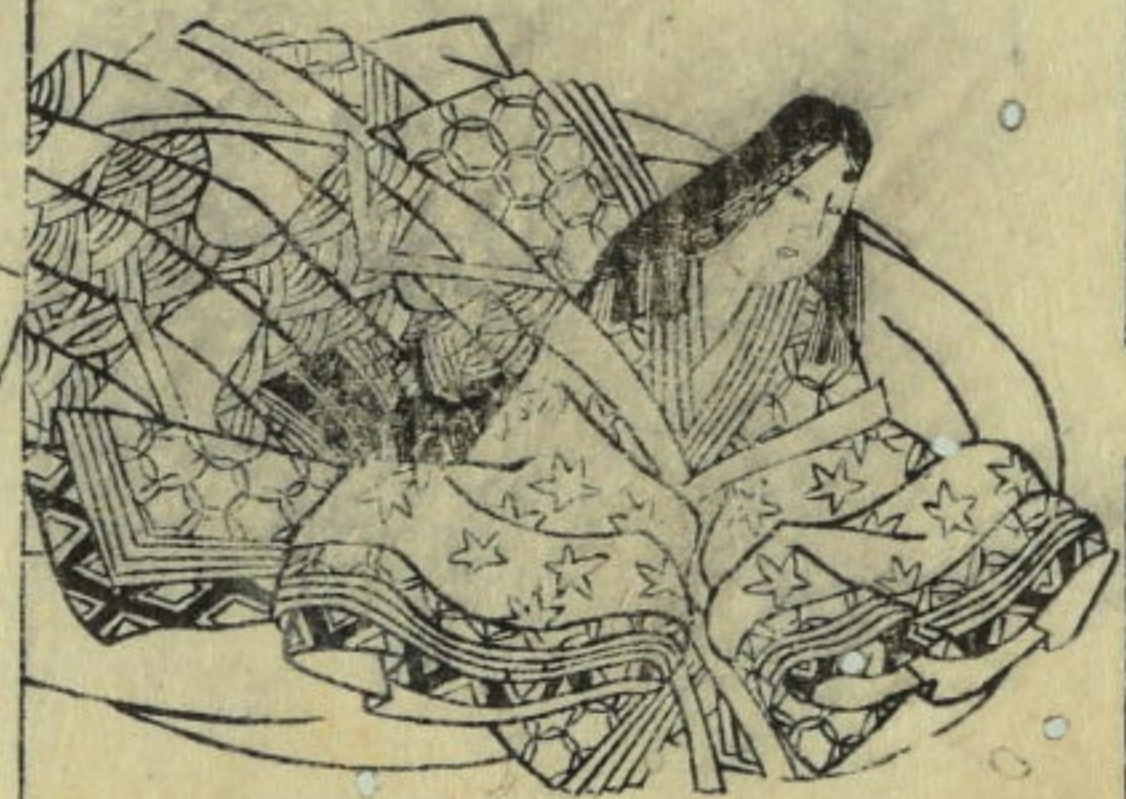
標

大青

神天満天



侍内馬



部式泉和



元信筆



人藤

書

輔大勢伊



部式紫



仙歌五壺梨

門衛深赤

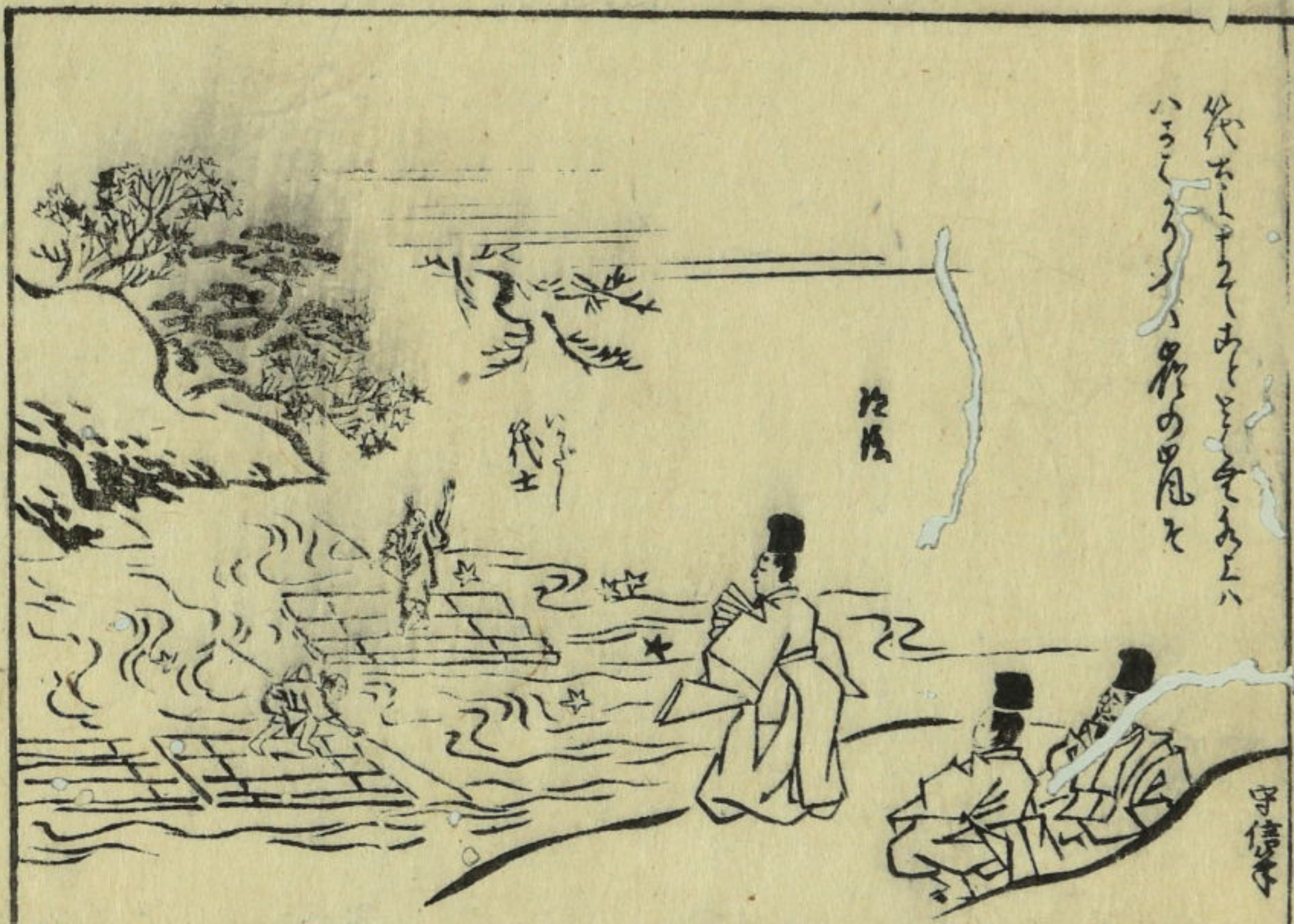


渡唐天神



安信筆

伏見の舟に
乗る人々の
姿を
見せしむる



守備

伏見の舟

舟に
乗る人々の
姿を
見せしむる



探出

伏見の舟



伏見の舟

兼平

排田新米

伏見の舟



俊成

舟に
乗る人々の
姿を
見せしむる

探出



畫卷之三

三夕

西行



寂蓮

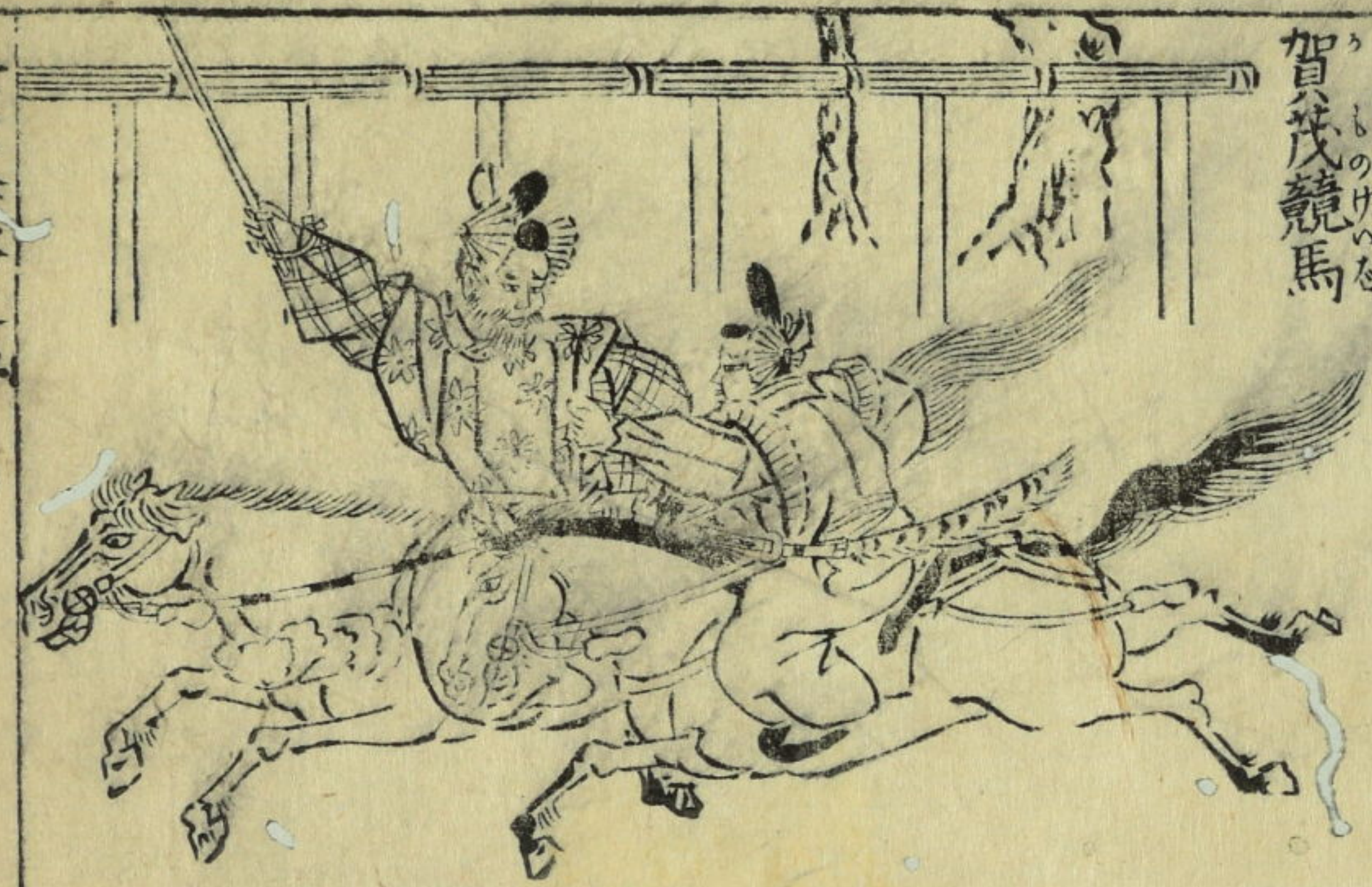


定家



三郎

賀茂競馬



朝引

法名守信



三保光屋

景清

雷公



土佐光信筆

萬歲



探出筆

放下



柳栄筆

腕推之截



臍推之截



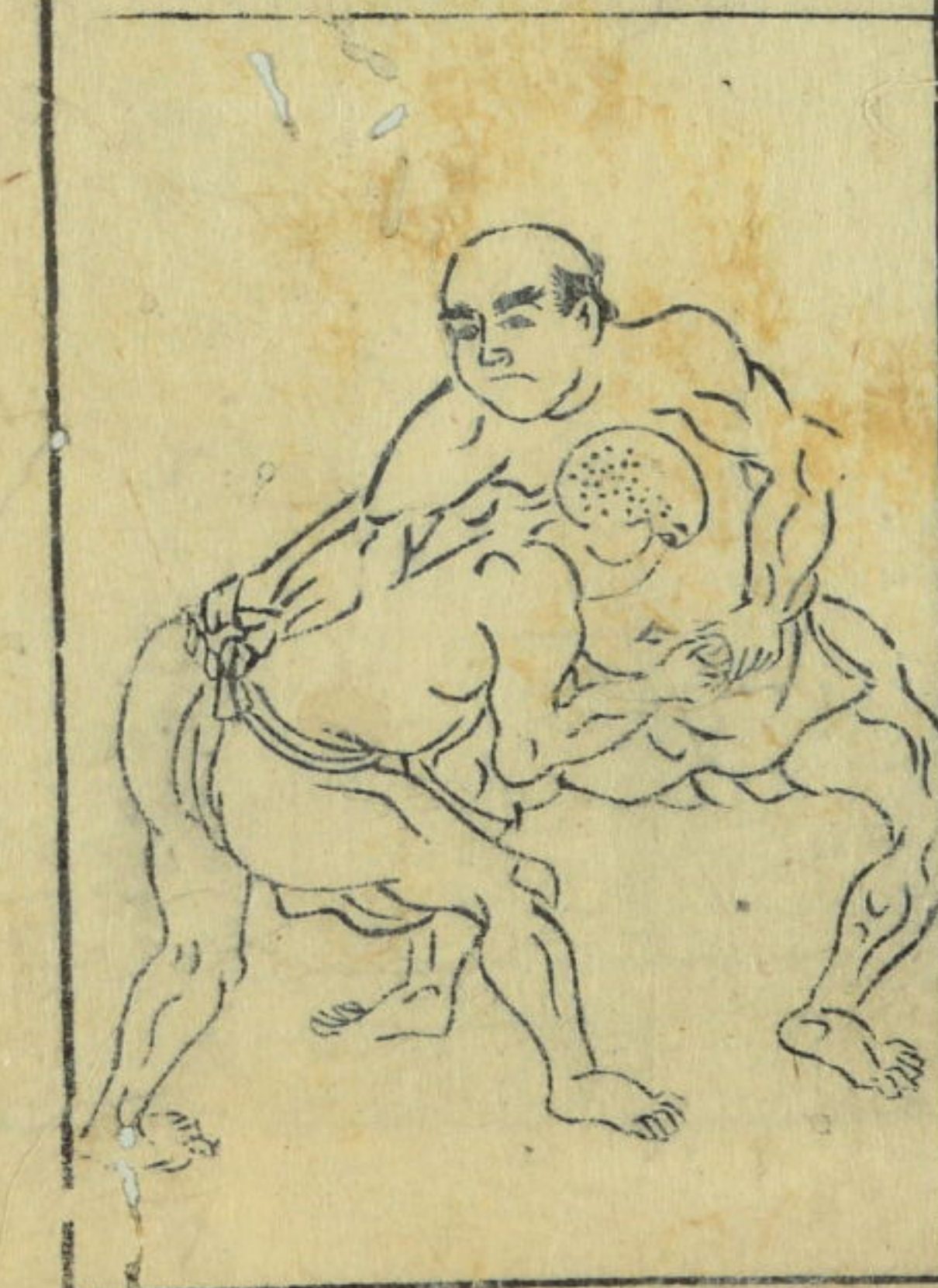
碁盤操



曲太鼓



畫卷之五
相撲



七

楠正成



紋ハ菊水

上杉謙信



武田信玄



紋ハ菱

大關秀吉

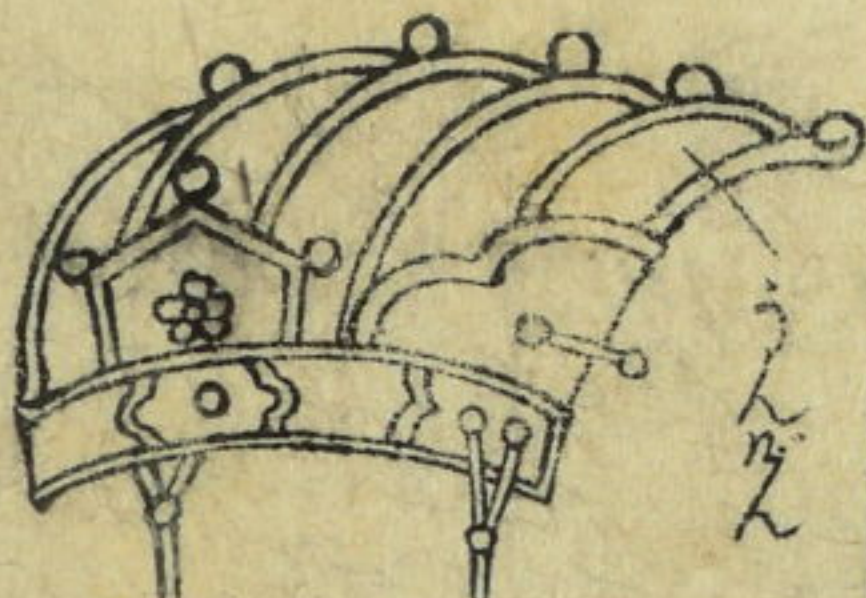
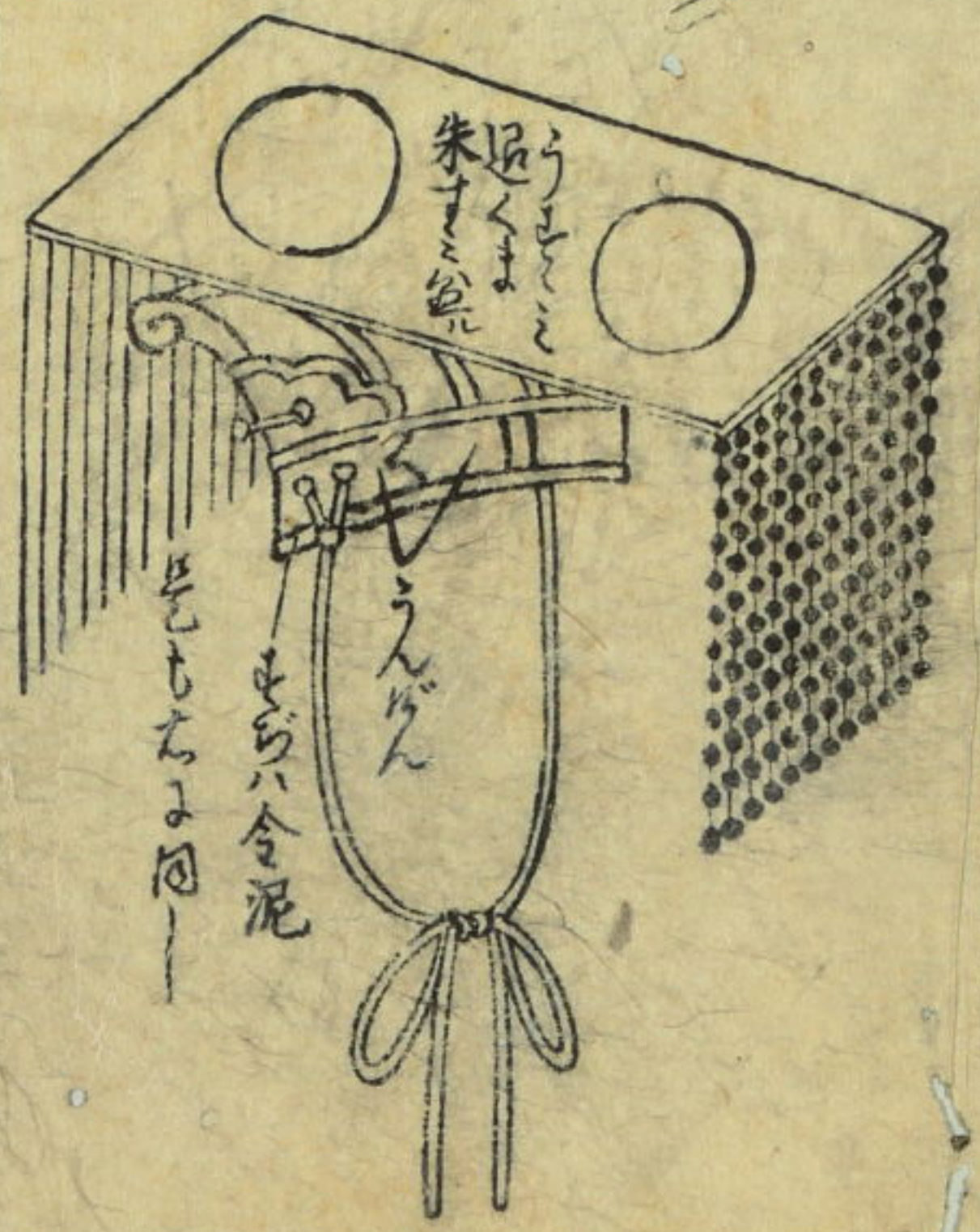


冕冠

おまのこうり

板と以て作らばは櫻格と
密る是と旒と云十有二也四時
十二月は法る礼記天子ハ玉藻
每旒各十二玉玉の間おまは十寸
旒の長さ一尺二寸密て肩より
公ハ九玉九寸侯伯ハ七玉七寸子
駝ハ五玉五寸天子の玉ハ五采朱
蒼黃玄白よりりて下り周
て復始ふ公侯伯ハ朱白蒼子
男ハ朱緑白旒ハ古

あゝさかちらま



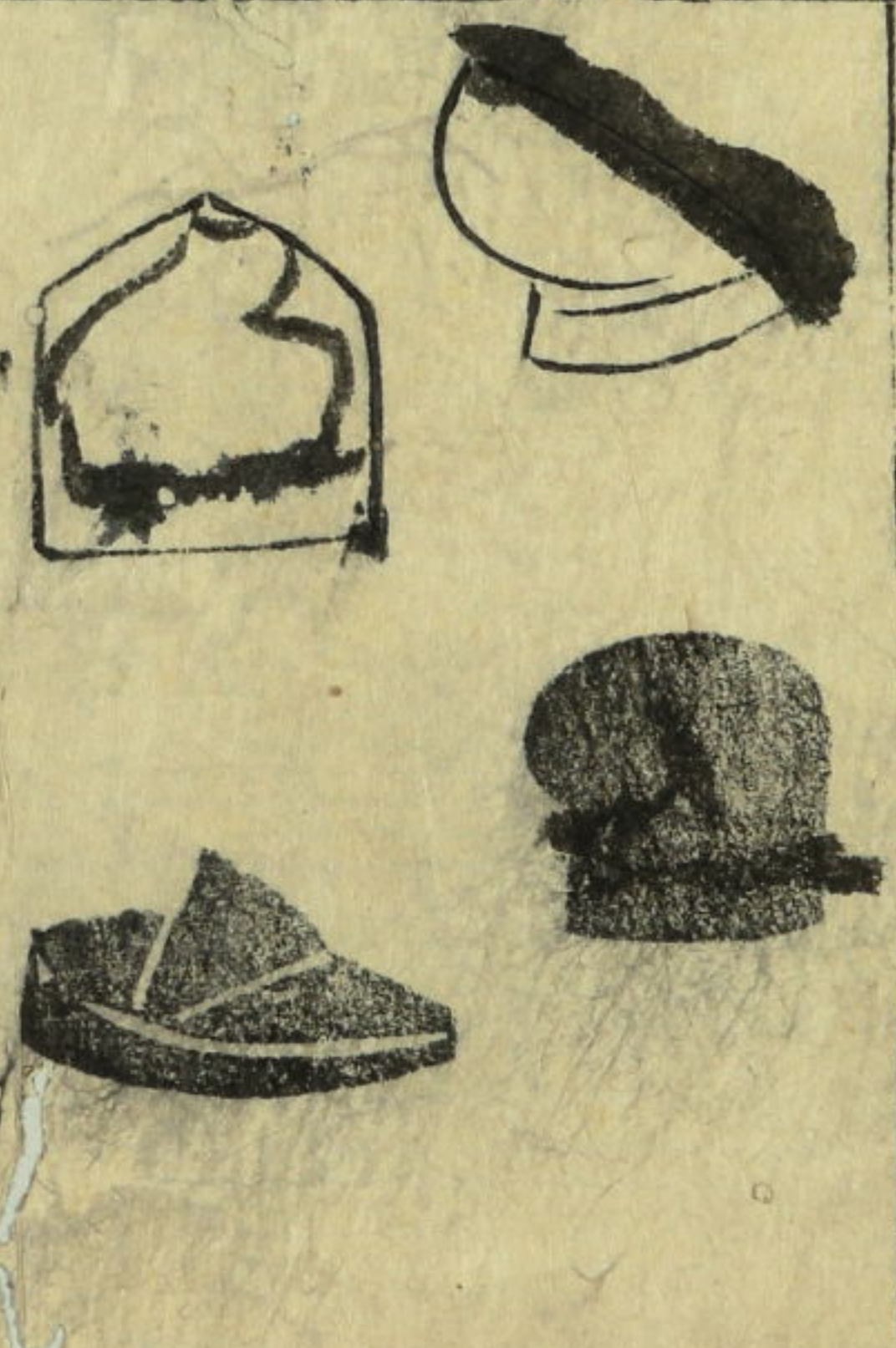
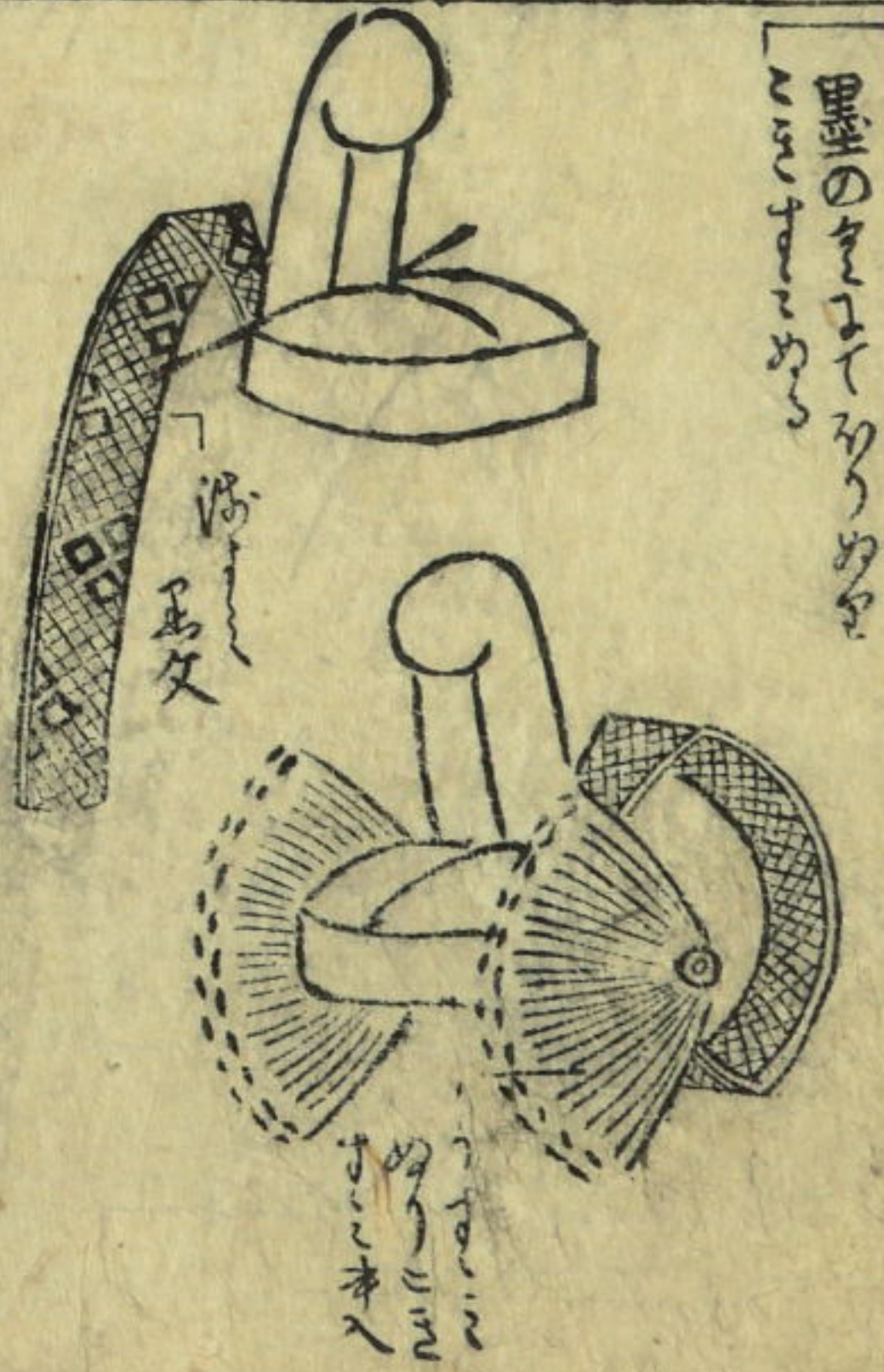
冠 日本

古ハ織物縫物等々天武上り皇
 宗漆塗の紗冠と著は髪と帽
 物と巾子と云其後より物を
 羅と云を及はるる物と纏と云
 亦取手と捲物と緋と云を
 貫く物を弗と云

烏帽子

紙といは割衣漆をゆる上たが
 物とた折と云は後い上著る
 衣折と五位のさる袴衣の
 時必烏帽し今世侍従以上系
 の術をいへる終ふたり

墨のきよてりゆめ



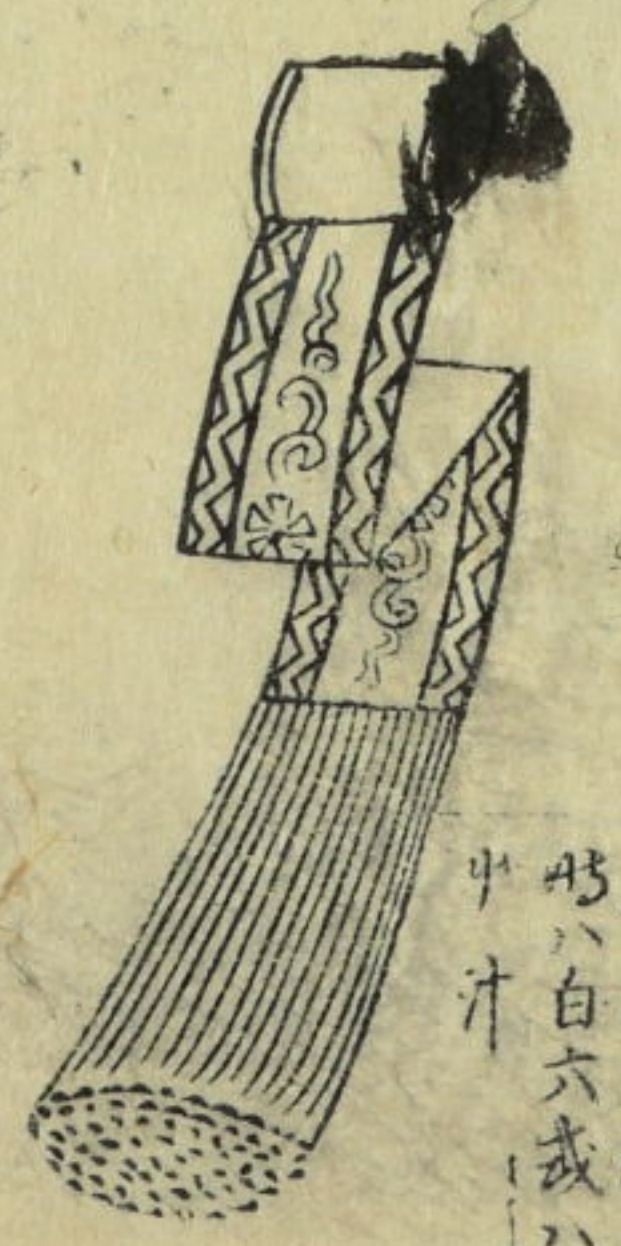
條帶 或ハ綾

畫家子平帯と云師乃曰
 申はま家のの紋とく或ハ
 蔓草とまへ一古畫多くハ
 緋と緑乃彩あり

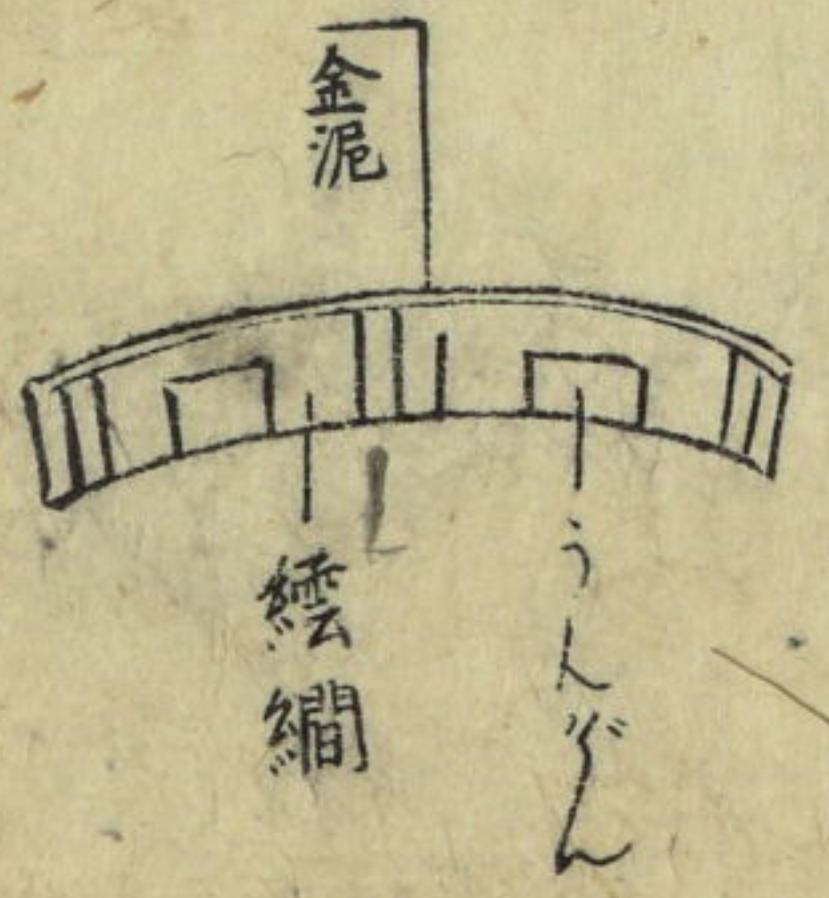
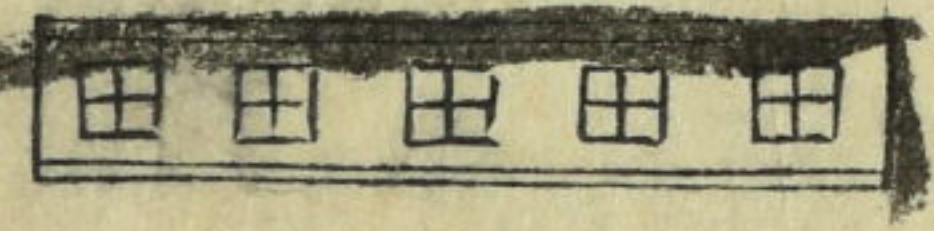
革帶

平帯ハ紐を通して帯は
 角牛をの角まで四角切
 て綴つを是も襷と扱と
 凡て公の御共ハ紐みらぬよ

或曰金



地元の時ハ
 わさき多
 或ハ金。緑の
 形ハ白六或ハ
 中才



金泥

緋緞

うんげん

裾すそ まぬのちり

古畫多く蛤粉と以て洗ぬり
同く括くわく或は退ぬり曲まがり
消し銀泥と以て紋を畫
き裏必す肉色。袴ハ蛤粉
よてぬるて銀泥を章と
虫石席或は鳥とりのさき

曲領まがえり

方心曲領ハ三才圖繪子
見くくわこふん淺くぬる

おれく
括くわく か

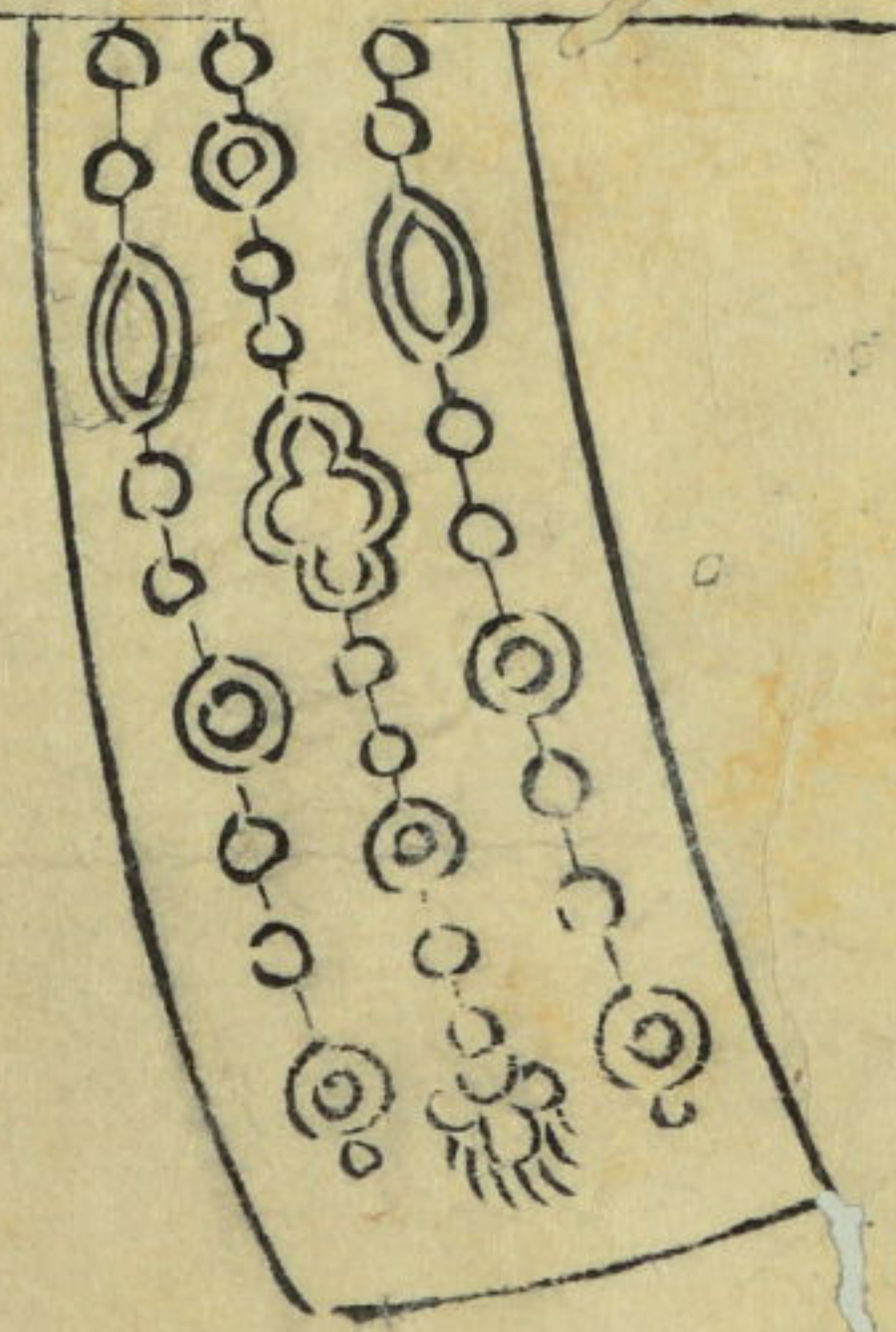


腰こし 袷あし

夢ゆめ 阿あ 曰いは 今いま の 袷あし 帶おび 珠たま と 甚
上うへ 小こ 綴つぎ へ 壓おさ へ 密みつ 縫ぬい。 羅山らざん 曰
袷あし の 上うへ に 繫つ ぶ 帯おび たり 師し 曰
白しろ 緑ろく の 具ぐ よて 塗ぬ ぶ ぶ しの 節ふし を
ひく 圈ま 中ちゆう の 金かね と 紺こん 朱しゆ 緑ろく を
をぬる

紳しん おかしき

白しろ 緑ろく 具ぐ とぬり 蛤かき 粉こな とぬり
茶ちや と 玄げん 或ハ 全ぜん 泥でい とぬり 四よ 色しき 茶ちや 汁じゆ
退のけ 塗ぬ 玄げん 或ハ 紺こん 朱しゆ 緑ろく の 取と り ぬ
けんよとぬり 紺こん 朱しゆ 緑ろく 一定いぢやう

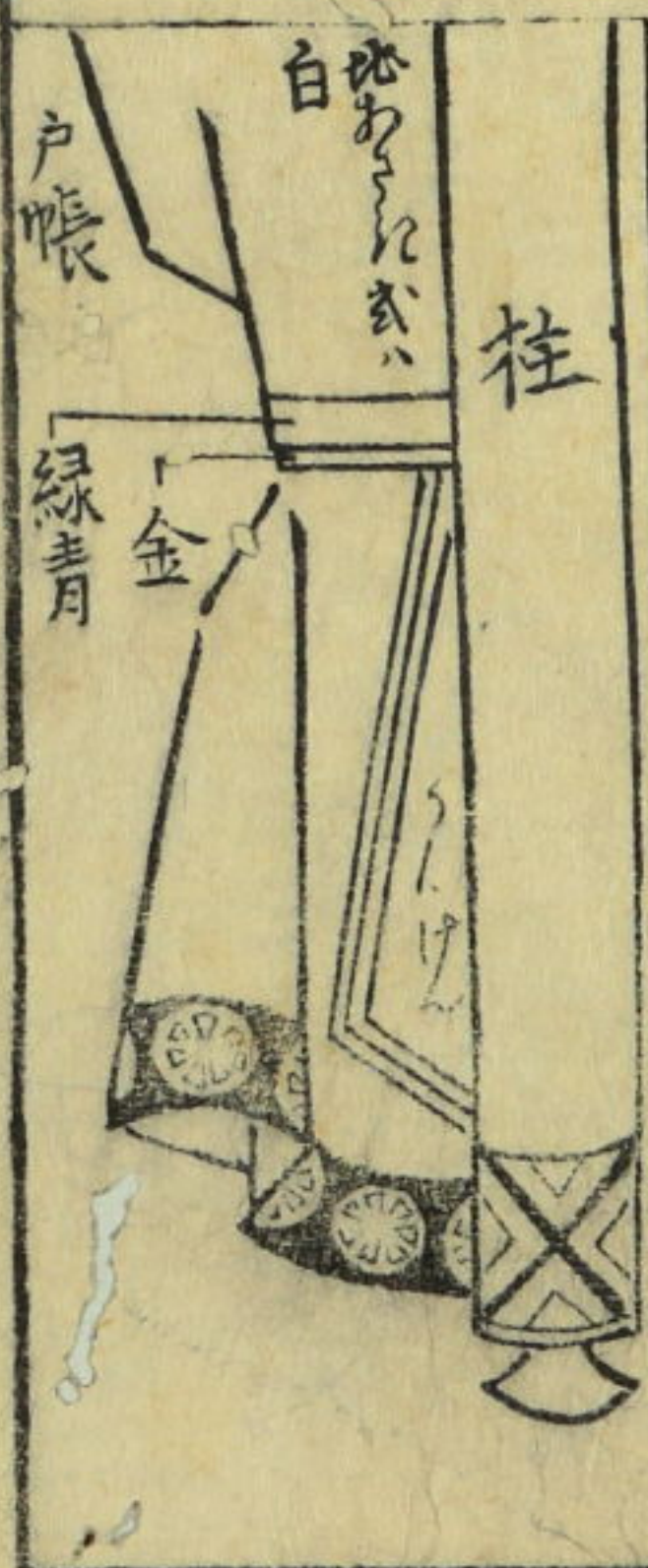
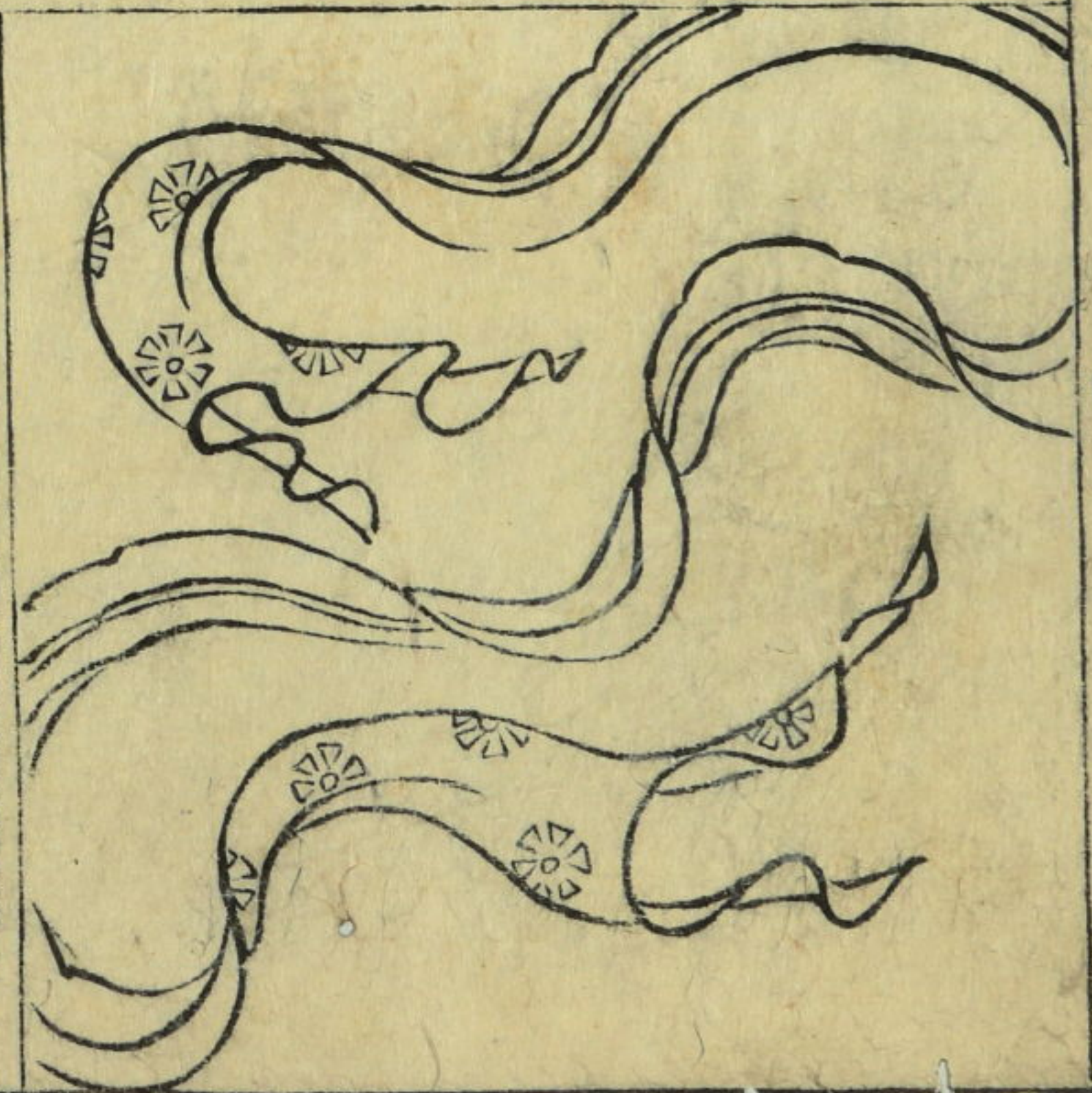


のうんがし

天衣

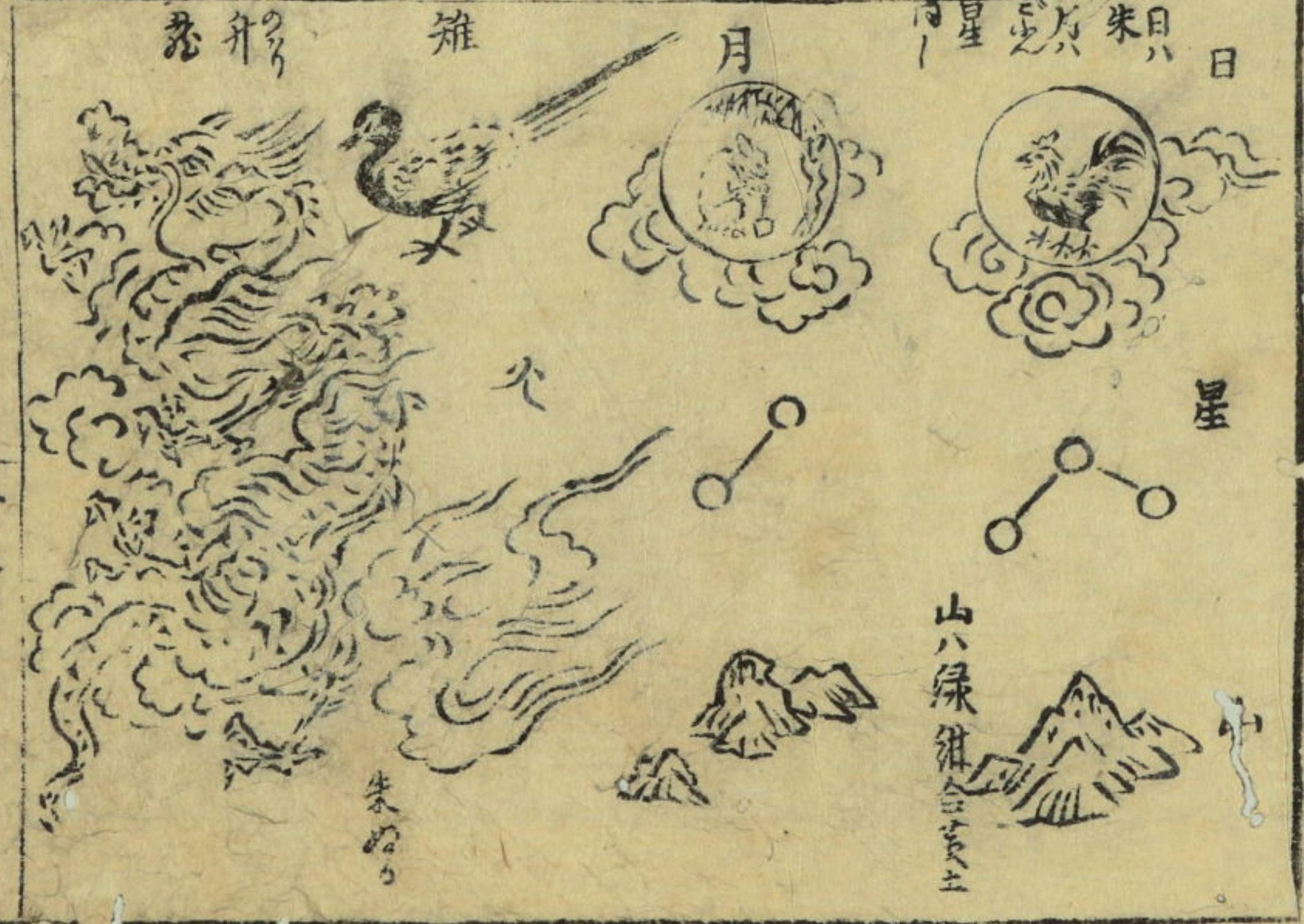
官方或ハ菩薩等の有ニ掛ル
衣ニカ帯レ知ラレトシ其
色赤クあり緋緑紫土朱茶
或ハわりとけ色ニまじリ紋
合泥よの
壁代
彩ハまろぬる色ヲた
漢宮をまじりうねり
あり

日本一の色
あき

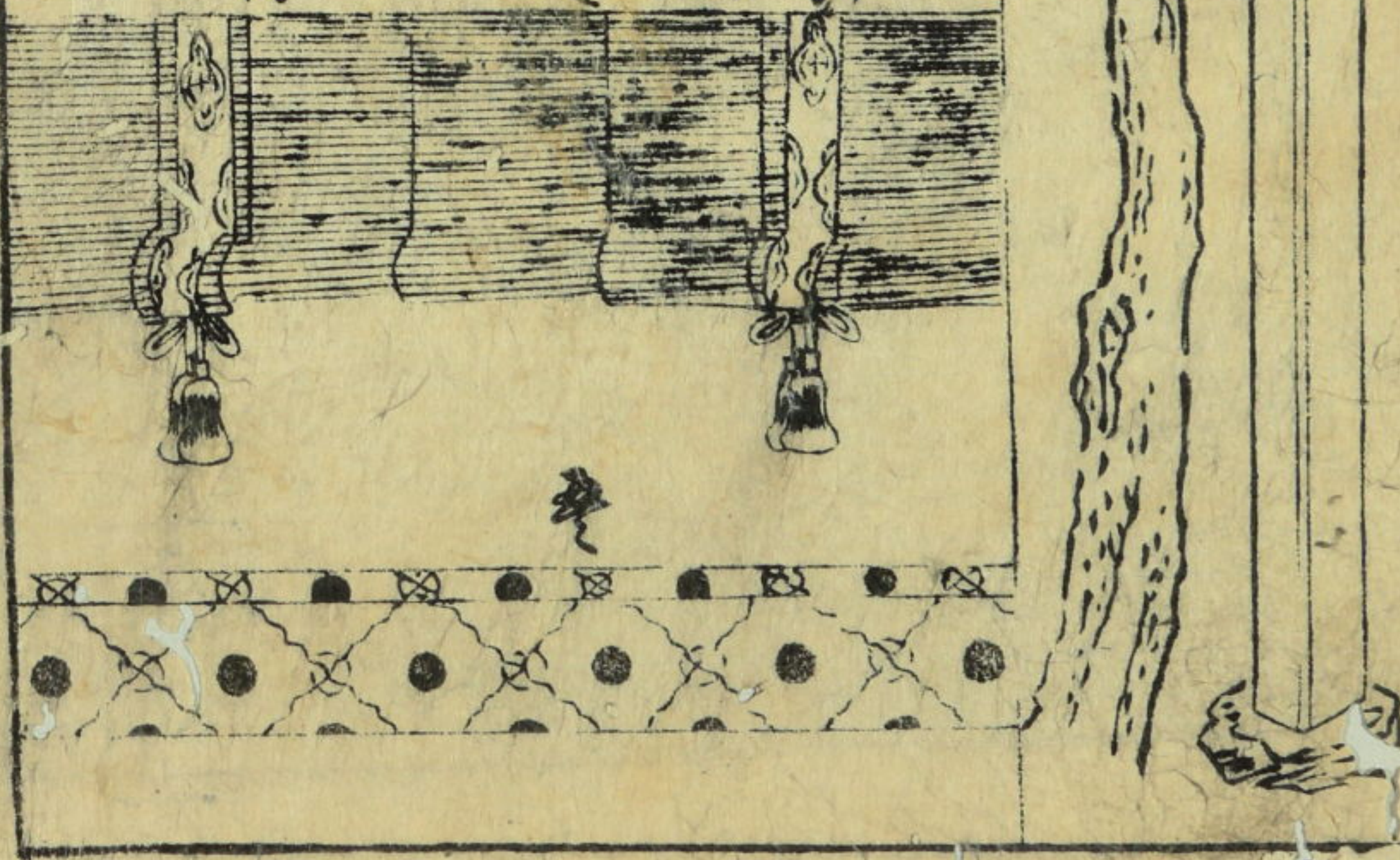


十二章

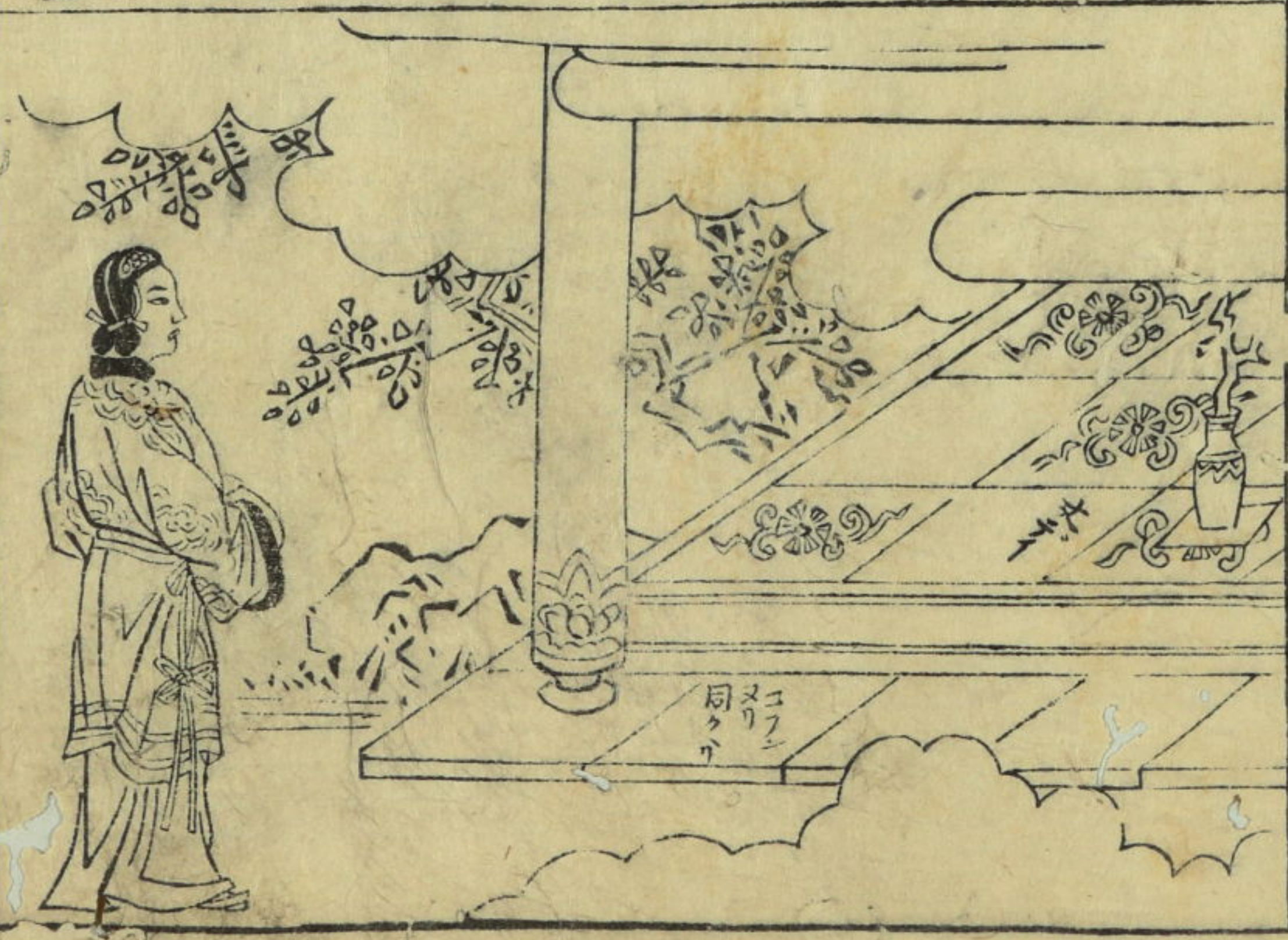
日月星辰山龍華蟲也六の
物ハ是ト衣ニ於テ其序上リ
して下リ宗彝藻火粉米
黼形黻形六のモレ也
裳ニ繡其序下リ
上ル今ハ火と宗彝トハ衣ニ上
○日月星辰ハ其照臨トシ
山ハ鎮と取ル龍ハ變也華蟲ハ
文宗彝ハ孝藻ハ水草也
火ハ明粉米ハ養黼ハ断也
黻ハ辨也黼ハ絳帛トシ



りくまるとん胡粉とく摺
 空珠何とゆうんけんごに
 七〇輻車地を白線と夜黄
 女一加てぬる或白六より夜黄と垂れ
 加すを不加と記の地塗れ上よ黄汁
 とぬる紋を摺むらととらんてりく志
 ことと挂或黄を車の浅黄とく志
 垂身なりぬる深黄の挽木との
 総朱帯代め仕立出―帛のふんすこれ
 方法朱の成る朱或へ朱ふの成る〇桶
 こと深黄の罪〇笏色或黄と



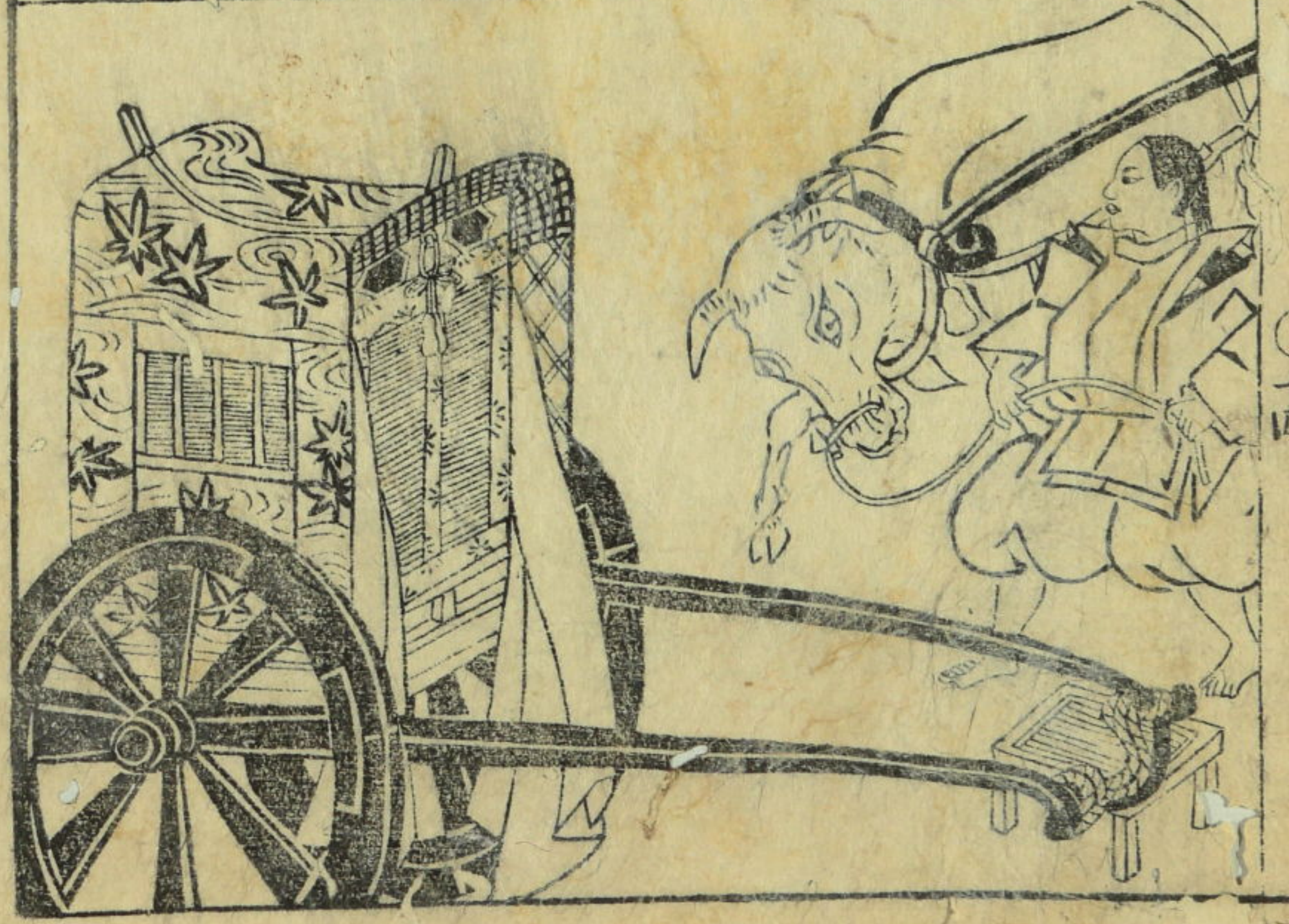
〇席縁或白縁小窓黄少
 加塗縁の地と明粉よてり臺支
 と虫或青海波と虫或は虫又と
 種洞た〇庭土具或合黄と
 朱すみあくめと虫こと又同
 〇葦屋合黄土の西より朱すも虫
 今檐の周の點々よれ〇瓦屋
 浅黄くまれわいらう柱或縹細
 彩もとま―〇檜皮菅朱と
 みてぬり檐の方下を黄又の如く
 黄とす―〇檐周の浅黄塗



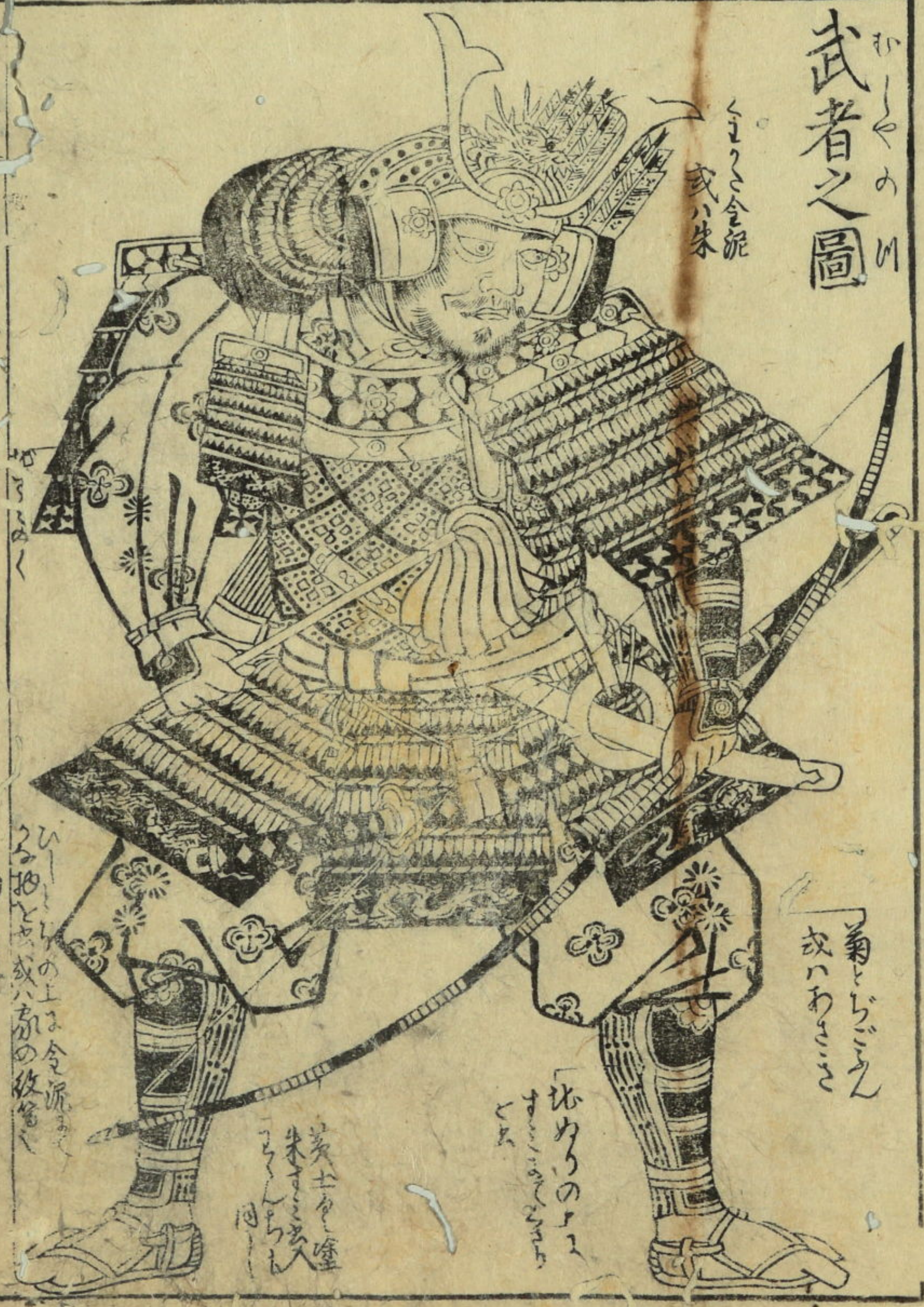
○磚ちか乃のぬくて同と隔て漆を
とり終つ極く了る意を成じ地を涉る
葱にきく一るこに意を成じと爲す
或はちとり切折りて括もり

簾すだれ

地と白六は者矣少く加へ塗て
上は二編を用て束入る之節と
鬼は或は中汁よくとまへ一編は
何れも塗章ハ木瓜と外
何れも虫へ一編ら糸糸に
て片く竹第を者矣之は星也



武者之圖



くまの金泥
或ハ朱

着たらしむ之
或ハあま

比ぬりのり
或ハあま

美士を塗
朱を塗
或ハあま

い
か
と
か
の
上
は
金
泥
を
塗
り
或
ハ
朱
を
塗
り

甲冑 畫家描之彩所のちれ多くす ○ 緑まじり
 赤の汁れとらと云 ○ 緋青は赤と成る成群青 ○ 朱は
 調脂福も同じ成金 ○ 赤青は乾殿 ○ 黒具は漆
 成福の方と赤雲わり曲れけす ○ 藤具は八福 ○ 蛤
 粉は銀泥 ○ 調脂具は生漆 ○ 脂具は同 ○ 氣蒸脂は
 全泥 ○ 丸塗の腹は華は黄と云とわら赤汁はを紋を
 本紋の巾子朱緋蒸脂當り入る又蛤粉をその輪
 と星はひとおらで佳 ○ 曹吹返と眉庇は黄土をどわり
 紋半と云し他一定ありす ○ 筋金多ハ泥 ○ 菱縹は朱と漆
 して作 他すその方ハ
はせそ二至した 吹返は家の紋と云 ○ 酒の色ハ甲も
 同 ○ 本成の塗ハ総角わり庸土ハ縹は著と云

○ 四家の外ハ源氏黒平家此系原前美橘黄也一家
 の統領あれを用也 ○ 緋系は因て色と後く色と以て名を
 稱ハ古乃縹ハたの脇ハ鎧受の板と云もの右乃筋子
 小神もとら
 ○ 緋威也
 紅周ハ赤乃
 系 ○ 火威地
 朱はわり小札乃
 次ハ銀紅乃系
 ○ 直緋威也
 しては

武 者 後 背 圖



此系原前美橘黄也一家
 の統領あれを用也 ○ 緋系は因て色と後く色と以て名を
 稱ハ古乃縹ハたの脇ハ鎧受の板と云もの右乃筋子

○糸緋威 全銀の小札の糸 ○赤真威 小札の糸
 朱の糸 崩糸 ○山吹威 糸の糸 ○金掬裳威
 金の札の糸 ○小梅威 冢木の糸 又白の糸
 白の糸 赤の糸 糸の糸 二股の糸 白の糸 二股の糸
 浅紅梅裳二股の糸 ○卵花威 白糸の糸 廻と糸
 乃糸の糸 或白の糸 又上二股白糸下と浅葱の糸
 ○白檀威 全白檀の糸 ○紫藤威 此糸の糸 糸の糸
 ○藤糸威 淡紫の糸 ○冢木威 合糸の糸 胡麻摺の糸
 極の糸 交糸の糸 糸の糸 糸の糸 ○鵝威 糸の糸 洗
 葱糸 ○葦草威 沖糸の糸 包の糸 ○黒葦威 糸の糸
 糸の糸 ○空色威 糸の糸 深縹の糸 ○白糸威

金の札の糸 ○洗葱威 鯛丸やと荒目錆色
 浅葱の糸 又洗葱の糸 ○洗葱威 小札の糸 又全
 小札の糸 糸の糸 ○段と威 糸の糸 糸の糸
 頭威 冢木の糸 又糸の糸 冢木にて交糸 ○肩白威 肩
 と白糸の糸 ○肩赤威 糸の糸 糸の糸 ○肩白裳紅 糸の糸
 肩白糸裳ハ紅 ○白糸威 白糸一色也 ○品白威 白糸
 糸の糸 糸の糸 ○楊梅桃李 冢木の糸 糸の糸 糸の糸
 糸の糸 ○間色威 糸の糸 糸の糸 糸の糸 ○縹葱 糸の糸
 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
 ○金裳緋 全小札の糸 三股糸の糸 ○紫裳緋 糸の糸
 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸

糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸
 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸 糸の糸



